

学校だより

桜水だより

須賀川市立第一小学校

28年度 第 30号

No.227

平成28年10月25日

☎75-2851

第64回福島県PTA研究大会郡山ブロック大会その3 第四分科会

分科会では、まず明健小PTAから子どもたちのスマホ・SNSの使用状況の報告がありました。それを受けて「子どもとメディア～親としての向き合い方～」を演題として、星総合病院診療部長兼小児科部長である佐久間弘子様講演がありました。その概要をお知らせします。

「子どもとメディア～親としての向き合い方～」

星総合病院診療部長兼小児科部長 佐久間弘子様

○ 増え続ける「ネット(メディア)依存症」

1才6ヶ月健診で「言葉の発育の遅れ」の子を見つけた場合、他の発育(聴力や運動能力)に遅れがないかを確認する。他の発育に遅れがない場合、テレビ、ビデオ漬けによる「メディア依存症」がほとんどである。増加している。

このような子は、前頭葉が活性化されず、「劣化」と呼んでいる多面的発達不全を引き起こしている。そして自己肯定感が著しく低い子に育っていく。このことを知っている家庭では、「2才までは茶の間にテレビを置かない」という手だてをとっている。

○ 自己肯定感

自己肯定感を育むのは容易ではない。やって見せて、やらせてみて、見守って、ほめる。子の治療のはずなのに、親にほめ方を教えてあげなければならない場合が多い。

○ 「ふぐも食べられる携帯電話」

ネット依存症は、51万8千人と言われている。大人になってからは、ネットトラブルが心配である。女子高校生が、深夜にチャットで「フグが食べたい」と書き込んだところ、すぐに、知らない人が、フグをごちそうするために車で迎えに来たという事例がある。

その後、この子がトラブルの被害にあったことは言うまでもない。

○ デジタルデトックス(デジタル機器から一定期間離れる取り組み)

治療として一定期間デジタル機器から離れるようにさせている。難しいのは、「やめたくても、やめられない人」ではない。「やめたいとは思わない人」なのである。

○ グッドネット

社会はこれからもメディアを推し進めようとしている。学校にタブレットが導入されてきている。ルールやマナーを作らずしてメディアを与えることは、その子をダメにする。

また、メディアを使わせないだけでもいけない。リアル社会の充実の支援も大切なのである。親自身が充実した楽しみ(ガーデニングや趣味)を持ち、そこにも子を誘ってあげることが実に効果的な方法なのである。

グッドネットの情報を大切にしてほしい。